

たかねみのり (奨励品種)

(農試 技術部・環境部・県北分場)

1 来歴

たかねみのりは、昭和50年北陸農業試験場においてアキニシキを母、ヨネシロを父として交配され、52年F₂種子を秋田農試が譲り受け選抜固定された系統である。系統名を秋田32号といひ59年に秋田県において奨励品種たかねみのりとして採用された。

岩手県では57年に本場・県北分場で、58年からは奨励現地においても収量性並びに諸特性を検討してきた結果、有望と認められた品種である。

2. 特性の概要

1) 形態的特性

苗丈はアキヒカリより短く、葉身の垂れは少ない。最高分けつ期頃の草丈はフジミノリより短い。茎数は多く、株は開張する。葉色はアキヒカリ並に濃く、葉身の垂れが少なく直立型の草姿となるが、出穂以降は葉が小さめで開き、やや劣る草姿となる。穂揃いも劣るが熟色は良く、少程度の短芒があり稈光色は黄白である。

穂数は多いが穂長は短く、稈長もフジミノリより9~10cm短く中稈の偏穂数型品種である。2次枝穂数が少なく粒着も疎で、穂初数はフジミノリより少ない。

玄米の粒形は中円でフジミノリより大きめで光沢・色沢・粒揃いが良く、品質はフジミノリ・アキヒカリよりまさる。搗精歩合はフジミノリ並であるが、搗精時間が短く胚芽むとれやすい。食味は育成地の検定ではヨネシロ・アキユタカよりまさり、農試本場でもフジミノリ・アキヒカリ・ハヤニシキよりまさっている。

2) 生態的特性

出穂はフジミノリ並であるが成熟期は3日早い中生の早で、出穂後の登熟速度が早く登熟歩合も安定して高い。稈はフジミノリよりやや細いがやや強稈で、倒伏抵抗性はフジミノリよりまさるがアキヒカリより劣る。穂発芽性は難で収量性はフジミノリ並からややまさるが、アキヒカリ並の多収性はない。

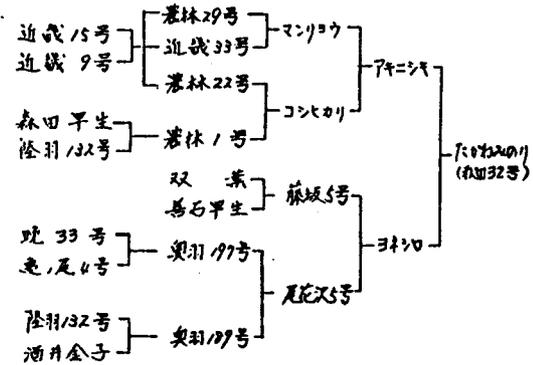
耐冷性はヨネシロより強く、フジミノリ・アキヒカリ・アキユタカにまさる耐冷性をもっている。いもち病抵抗性遺伝子はP₂-1をもち、葉・穂いもちに対する耐病性はフジミノリ・アキヒカリより優るものと推定される。

3. 奨励品種に採用したい理由

県中・北部では55年以降の冷害により、減収と品質低下が大きな問題となり耐冷・良質品種の選抜が要望されてきている。

このたかねみのりは障害型耐冷性がフジミノリ・アキヒカリ・アキユタカより強く、また出穂の遅れが小さく登熟速度も早いことから遅延型冷害にも対応できる品種である。さらに、品質・食味並びに耐倒伏性もフジミノリにまさることから、この地帯の稲作の安定化と品質向上をはか

系譜



るためフジミノリに替えて、奨励品種に編入する。

4. 適応地域及び作型

高冷地帯を除く果中・北部並びに北部沿岸全域を適応地域とし、3000~4000haの普及を見込む。

5. 栽培上の留意点

低温発芽性がやや劣ることから浸種・催芽を十分行なって加温出芽を励行するとともに、低温活着性がやや劣るので健苗を育苗し、適正な水管理を行って初期生育の促進をはかる。穂数はとれやすいが一穂粒数が少ないためフジミノリよりやや粒数がとりがたい欠点があるため、早期に大きい茎をとり穂数確保につとめる。60kg/aの収量を得るためには450本/m以上の穂数が必要である。フジミノリより耐肥性はまさっているが無理な多肥栽培はさける。刈取適期は積算温度で1000~1100℃を目安とするが、被害粒の発生が少ないので適期幅はフジミノリ・アキユタカよりやや長い。いもち病と紋枯病には発病に注意して適期防除に努める。

6. 試験成績 (生産力検定本調査)

表1. 出穂・成熟期調査 (58~59年標比平均)

場所	品種名	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	倒伏
本場	たかねのり	8.12	9.28	81.7	17.7	487	0
	フジミノリ	8.12	10.1	88.5	19.2	399	0.4
	アキヒカリ	8.12	10.1	75.4	17.0	450	0
果北分場	たかねのり	8.9	9.26	84.7	18.2	432	0.5
	フジミノリ	8.9	9.29	91.2	19.7	377	1.5
	アキヒカリ	8.10	9.29	78.0	17.1	403	0

表2. 品質及び検査等級

場所	施肥法	年次	検査等級		
			たかねのり	フジミノリ	アキヒカリ
本場	標	57	10F	20F	20上
		58	10F	20F	10F
		59	10中	20F	10F
	多肥	58	10上	20上	10F
		59	10中	30上	10下
		57	1	3	3
果北分場	標	58	20上	30中	20中
		59	10上	20中	10中
		58	20中	30中	20中
	多肥	59	10中	20中	10中
		57	1	3	3
		58	20上	30中	20中

表3 収量及び構成要素 (58~59年標比平均)

場所	品種名	玄米重 (kg/a)	粒数		登熟率 (%)	千粒重 (g)	不稔粒 (%)
			1穂当り (粒)	1m ² 当り (粒)			
本場	たかねのり	68.0	71.1	34.6	86.8	22.9	4.4
	フジミノリ	65.8	86.6	34.6	84.4	22.6	5.7
	アキヒカリ	74.3	86.1	38.7	80.3	22.7	6.8
果北分場	たかねのり	65.4	77.9	33.7	85.2	23.0	4.8
	フジミノリ	64.4	87.1	32.8	82.7	23.2	5.7
	アキヒカリ	69.0	89.1	35.9	82.4	22.8	6.1

表4. 食味特性調査結果

品種名	濃試本場					総合評価
	外観	香り	味	粘り	硬さ	
たかねのり	0.69	0.04	0.43	0.27	0.19	0.64
ハヤニシキ	-0.77	0.08	-0.15	-0.15	0.27	-0.19
アキヒカリ	-0.08	-0.04	0.42	0.39	0.12	0.42

注) 59.12.5日実施。濃試本場職員3名による。標準(フジミノリ)を0とする。平均値の数字の大きい方が軟い。硬さは数字の大きい方が硬い。

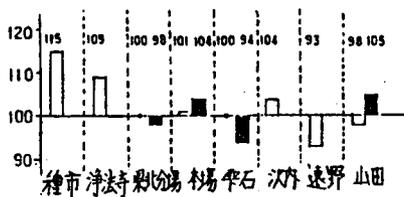


図1. フジミノリ対比収量比率 (58~59平均)

表5. 長期かけ流しによる耐冷性検定

年次	54			55			56			57			58		
	出穂 枚数	不稔 歩合	判定												
標) 野島	7	15.9	極強	6	28.8	強	3	21.9	極強	3	23.1	強	4	25.3	強
(比) アキヒカリ	7	48.3	強	9	49.5	強	7	30.2	強	3	29.9	強	4	36.9	強
(比) アキユタカ	6	69.7	中	10	80.4	中	9	72.0	中弱	5	62.6	弱弱	8	85.1	極弱
(比) アキユタカ	—	—	—	8	81.1	中	7	53.0	中	6	38.3	や強	7	52.9	中